

地域総合研究所「地域おこし活動報告会」を開催

11月9日、創立50周年記念館(西棟)W-103教室で、地域総合研究所主催の「地域おこし活動報告会」が行われた。本報告会は、様々な地域おこし活動を行っている学内のゼミ・グループがそれぞれの活動内容を報告し、それを参考にして活動内容のブラッシュアップを図るとともに、ゼミ・グループ間のコラボレーションによる効果の増大を図ることを目的とした。当日は、各ゼミ・グループの報告の後、倉橋透地域総合研究所所長及び関係の教員がコメントした。今回報告したゼミ・グループは以下の通り。カッコ内は所属学科。

鈴木涼太郎(交流文化)ゼミ、和田智(言語文化)ゼミ、高安健一(経済)ゼミ、大坪史治(経営)グループ、米山昌幸(国際環境経済)ゼミ、大竹伸郎(国際環境経済)グループ、大谷基道(総合政策)ゼミ



経済学部全載旭ゼミと慶應義塾大学駒形哲哉ゼミが合同ゼミ開催

11月9日、創立50周年記念館(西棟)W-201教室で、経済学部全載旭ゼミと慶應義塾大学経済学部駒形哲哉ゼミの15回目となる合同ゼミが行われた。この合同ゼミでは、テーマに基づき事前に作成した論文を発表。質疑応答や議論を通じて研究分野の理解を深めることを目的としている。

今回、全ゼミは「産業連関表から見た中国の経済発展方式の転換～外需主導型から内需主導型へ～」、駒形ゼミは「中国は何故急速にキャッシュレスが進んだのか?～資金循環の枠組みから中国の特異性に迫る～」と題した論文を発表。

全ゼミ代表の志田開智さん(済3年)は「論文作成に苦戦したが、仲間と協力し作り上げることができた。他大学の学生からの指摘は良い刺激となったので今後につなげたい」と語った。



飯島ゼミ・米山ゼミ合同講演会「東西文化交流への想い」開催

11月15日、学生センター雄飛ホールで、言語文化学科飯島一彦ゼミと国際環境経済学科米山昌幸ゼミによる合同講演会「東西文化交流への想い～能とバレエのコラボレーションによって生まれるもの～」(後援:獨協大学父母の会)が開催された。

講演会では、まず両ゼミの活動報告と、東日本大震災で被災した福島県富岡町の現地調査の報告を行った。その後、11月上旬に東日本大震災被災地4か所を巡る公演を行った、観世流シテ方楽師の津村禮次郎氏と英国のバレエ団Ballet Theatre UKで芸術監督を務めるクリストファー・ムーア氏が登壇。飯島教授と対談し、被災地訪問で感じたことなどを語った。会場には約70名が来場した。



小学生が法と裁判のしくみについて学ぶ 子ども大学そうかの講義を本学で開催

12月7日、4棟3階法廷教室において、2019年度「子ども大学そうか」の一環で、山田恒久国際関係法学科教授が、小学生に「法と裁判のしくみについて学ぼう」と題した講義を行った。今回の講義には、23名の草加市内の小学生が参加した。

当日、小学生は弁護人役、検察官役、裁判官役に分かれ、台本を基に実際の法廷内の様子を再現した。山田教授は「法律はみなさんの生活を守るために作られたものです。ただ、護身術などと同じで、使い方を間違えると相手を傷つけてしまいます。今日は使い方をしっかり学びましょう」と話した。小学生は、初めて聞く法律用語や六法の使い方に悪戦苦闘しながらも、興味深そうに山田教授の説明を聞いていた。



総合政策学科高橋均ゼミと法政大学荒谷裕子ゼミによる合同ゼミ開催

11月27日、創立50周年記念館(西棟)W-312教室で、総合政策学科高橋均ゼミと法政大学荒谷裕子ゼミとの会社法の合同ゼミが開催された。合同ゼミは、1回目の法政大学での開催に続き今回が2回目。

今年は、高橋ゼミ27名、荒谷ゼミ24名が「企業買収」をテーマに実施した。混合で7グループに分かれ、企業買収の事例における法的論点の整理や個別事象に対する法的対抗策等についてグループ内で議論した後、



法制度や判例等を参考にグループとしての結論を発表。それに対して、全体質疑と両教授からの講評があった。終了後には懇親会を行い、お互いの大学生活などについて和やかに歓談し、親睦を深めている様子だった。

留学生が草加高校などで国際交流

11月11日、本学に留学中の交換留学生7名が、埼玉県立草加高等学校に招かれ1年生と交流した。これは、同校の国際理解教育の一環として行われたもので、今回で8回目となる。当日、留学生は、スライドなどを用いて、英語や日本語で出身地域の歴史や文化を紹介した。参加した留学生カムケ・レオナルドさんは「緊張したが、高校生が関心を持って聞いてくれた。良い取り組みだと思う」と感想を述べた。

また、11月25日には留学生3名が獨協中学・高等学校、12月6日には留学生4名が草加市花栗中学校を訪問し、プレゼンテーションなどを通して、生徒と交流した。

